

ホームページへの反響から

犯罪被害者の人権をどう考えているのか!?

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

私たちのホームページは、主にこれまでのピラの内容を転載しているだけなのですが、それでも、配ったピラの枚数よりも多くの方がアクセスしてくれています。そして、質問や意見も多数寄せていただいています。

☆☆☆

その中でもっとも指摘されるのは、「貴会に限らず、死刑廃止を言う人は加害者の人権ばかりを強調している。被害者の人権をみなさんはどう考えているのか」という点です。冤罪の問題についてはみなさんがいっているの理解を示してくれますが、「それは裁判の問題であり、死刑制度の問題とは切り離して考えるべきだ」という意見も多く聞かれます。「死刑をなくして治安は保たれるのか」という不安も濃いようです。そして悲惨な事件が起こるたび「こんな事件の犯人を死刑にしないでどうするんだ!」というお叱りを受けます。

☆☆☆

いずれも、かんたんに答えられることではありませんが、あえて記しますと、「加害者の人権」と「被害者の人権」を対立的に考えているばかりでは被害者への救済にもならない。完璧な裁判というものはありません。冤罪は常に起こりうる。現に死刑を廃止している国・社会が多数ある。というような返事をこれまで書いてきました。

☆☆☆

被害者や遺族にとっても酷い社会であるのは事実です。しかし、加害者を死刑にすることで満たそうとしているのは被害者・遺族当事者のというよりは社会一般の報復感情のように思えます。

「あなたの家族が殺されても、それでもあなたは犯人に極刑を求めないか?」ともよく言われます。これもかんたんには答えられません。しかし、殺人事件の被害者と加害者が親族であるケースが4～5割を占めている（「犯罪白書」による）ことを知って、なお、同じ問いがかんたんに発せられるのでしょうか。

☆☆☆

実際、死刑廃止の意見を持ちつつ、犯罪被害者支援の問題に熱心に取り組んでいる人たちも多いのです。しかし、その方たちは、死刑廃止のために、被害者問題もやっている、という印象を持たれては心外なので、そのことをあまり多くは語りません。ですから、私たちもこれ以上のことを記すのは控えます。

むしろ、被害者や遺族に冷たい社会と、加害者に死んで償えと迫る社会のほうこそ、つながっているのではないのでしょうか。

☆☆☆

11月24日に「死刑執行の終止符を！ 死刑廃止を願う市民集会」が開催されます。私たちも賛同団体に名をつらねています。さまざまな角度から死刑の問題に取り組んでいる多くの人たちの声をぜひ直接聞いていただければと思います。